

進捗状況の概要 【1ページ以内】

同済大学および釜山大学（両校とも本学と大学間交流協定を締結しており、建築分野はアジア有数にランクされる）と3大学コンソーシアムを形成し、学生にアジア都市・建築の多様性を共有しながら国境を越えた学びの場を提供している。都市・建築の全体を周辺領域まで俯瞰することで、生活環境の実態や社会的・文化的背景の理解に基づいて個々の技術や政策を総合化し、環境施策を実践する人材育成を目指している。更に、質の保証を伴った魅力的な教育プログラムを国際的に広く普及させるため、下記の実施を行っている。

1. システムの構築

(1) 協働プログラムの実施

本事業専任の教員とスタッフを配置し、派遣・受入学生が留学先で安心して修学できるように学習面・生活面での相談やサポートのための支援室を設置した。また、3大学コンソーシアムを形成し、教育運営委員会を定期的に開催した。特に、平成30年度から開始するダブル・ディグリー・プログラムの実施に向け、3大学における学務上の条件整備を行った。

(2) 教育管理Webシステムの構築と活用

3大学共同で情報を共有・管理するため、教育管理Webシステムを構築し、国際ワークショップの開催情報や学生名簿、成績等の情報を厳密な管理のもと共有している。特に毎年8月に開催するサマースクールでは、スケジュール管理、教材や課題の共有をスムーズに行うため、参加教員、各学生にIDアカウントを配布し、積極的に活用している。

(3) 国際標準モデルの普及と国際広報

平成29年3月にポータルサイトの運用を開始し、国際ワークショップやサマースクールの実施状況、プログラムを通して得られた成果等の最新状況を掲載することで、国内外に広く情報発信を行っている。また、本プログラムの概要とダブル・ディグリー・プログラムの詳細を含むリーフレットを日本語版と英語版で作成し、教育の国際化に積極的に取り組む関係大学への送付、および国際ワークショップやフォーラムにおける配布などにより、国際標準モデルの普及を図っている。

2. 交流プログラムの実施

(1) 派遣・受入の実施

平成28年度より派遣・受入を実施し、平成29年度までに開催された国際ワークショップに延べ54名の学生を派遣し、パートナー校である同済大学と釜山大学からはサマースクールとセメスター交流を通し、延べ22名の学生の受入を実施した。

(2) 英語力向上セミナーの実施

本事業による学生交流プログラムに参加する院生を対象に英語力向上セミナーを2ヶ月間実施し、計23名の学生を支援した。受講生は、積極的にコミュニケーションができる英語力を身につけること、自分の研究について英語でプレゼンテーションを行うことができるようになることを目標に全15回を受講した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
5人	17人	0人	0人	20人	37人	20人	22人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

I. 国際ワークショップへの派遣

平成28年度2月に開催された釜山ウィンターワークショップを始め、計6つの国際ワークショップへ延べ54名の学生派遣を実施した。いずれのワークショップにおいても、他大学の学生と協働で課題に取り組むカリキュラムやグループディスカッションが設けられており、これらを通して、参加学生は幅広い知識の習得と実践力を得ることができている。また、海外の学生と混合チームを組み、コミュニケーションを図りながら、一つのデザイン・提案を共同で行う機会を多く設けるアクティブ・ラーニングを実施することで、本プログラムが目標としている国際的に活躍できる都市・建築環境の専門家の育成、それに必要なコミュニケーション力やプレゼンテーション力の養成、ならびに国際標準モデルとなる教育方法の構築および教育環境の充実を図っている。

II. サマースクールの開催

本学において、平成29年8月に開催したサマースクールでは、中国・韓国から15名の留学生を受け入れ、3大学協働によるコア科目、実践科目を実施した。サマースクールには、本学の学生を含め計21名の学生が参加し、3週間にわたり福岡市の都市・建築を対象として分析と改善計画を提案した。都市・建築の具体的な課題に対して、建築学を学ぶ異なる国籍の学生が協働で取り組むことで、相互理解を深めるとともに、生活空間に対する新たな認識を得る機会となった。更には、3大学の学生による混合グループを形成し、共同してデザインの提案を行う機会を多く設けたことで、コミュニケーションを取る必然性が高まり、国際舞台で活躍するために必要な英語力と国際力を効果的に培うことができた。

III. 教育管理WEBシステムの活用

学生の就学や教員の指導を支援するため、平成29年3月に教育管理WEBシステムを導入した。同年8月に開催されたサマースクールにおいて本格的な活用を開始し、WEBシステムを介して講義内容や教材を共有することで、事前準備を円滑に行うことが可能となった。また、WEBシステム内に各グループが作業可能なスペースを設けることで、グループ活動が円滑に行われ、作業の効率化につながった。更には、帰国後も3大学の学生による共同作業をWEB上において遠隔で行うことが可能となったため、プログラム終了後に出版した成果本の作成もスムーズに行うことができた。

IV. ダブル・ディグリー・プログラムの開始

平成28年度より3大学コンソーシアムにおいて5回にわたり運営委員会を実施し、ダブル・ディグリー・プログラムの実現に向けて単位認定条件・方法や論文審査方法等の検討を行い、学位授与の枠組みを構築した。平成30年2月に釜山大学とダブル・ディグリー協定の締結を行い、続けて同年6月に同済大学とも協定を締結した。平成30年4月から釜山大学とダブル・ディグリー・プログラムを開始し、平成30年度は釜山大学から2名、本学から2名の学生がダブル・ディグリー・プログラムに参加して学位取得を目指している。

V. 英語力向上セミナーの開催

本プログラムへ参加可能な大学院修士課程の学生、留学予定の学生を中心に参加募集を行い、希望学生23名を対象に英語力向上セミナーを開催した。英語能力の中でも特に学生の習得が望まれる英語で討論できる力、および英語によるプレゼンテーション力を身につけられるように、授業は2部構成となっている。前半の3回の授業では、積極的に発言を行う時間を多く設け、英語脳を鍛えるカリキュラムとしている。後半12回の授業では、プレゼンテーションに焦点を当て、最終授業では各学生が自分自身の研究について英語でプレゼンテーションを実施し、評価を行っている。また、受講生にはTOEICやTOEFLの受験を促し、英語能力を測るよう推奨している。学生の外国語への学習意欲が向上し、英語力の向上に繋がっている。